

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2020.2.25 No.372 東京・羽村平和委員会発行



CVオスプレイ 4機、2月19日横田を離陸、多国間軍事演習へ



横田基地のCV22Bオスプレイが、2月19日9時58分に1機、10時06分に1機、10時25分ごろ2機、計4機離陸しました。

岩国基地を経て、15時ごろからおよそ30分の間に、CVオスプレイが4機、嘉手納基地に着陸しました。

2月20日、CVオスプレイは嘉手納基地を、11時半ごろと0時40分ごろに、2機ずつ離陸しました。

CVオスプレイは、25日からタイで実施される多国間軍事演習「コブラゴールド」に参加するそうです。

昨年もタイで、パラシュート降下訓練や艦船で離着陸訓練等やっていました。



戦闘機、土曜飛来、日曜離陸、多い

2月22日(土) 13時32分、米海軍の戦闘攻撃機F/A-18Eが5機、横田基地に着陸しました。

23日(日) 16時37分、戦闘攻撃機5機は離陸しました。土曜日に飛来し、日曜日に離陸して行くことが増えています。

横田基地は、何でもありの基地になっています。基地の撤去を求める声を、大きくしていきたいですね。

米空軍が輸送編隊訓練

米空軍C-130J-30輸送機が10日から14日にかけて横田基地(東京都多摩地域)を拠点に実施していた編隊飛行訓練は、米本土からインド太平洋地域に輸送機を定期的に展開する新たな構想の一環だったことが、23日までにわかりました。米空軍は横田基地にアジアで唯一、C-130輸送機1個飛行隊14機を配備しています。「アジア重視戦略」のもとで、軍事作戦に即応する輸送機を増強

横田拠点化の一環

し、横田基地を空輸拠点として強化しようとしています。

横田基地の監視活動をにつづけている羽村市の羽村平和委員会によると、編隊飛行訓練には、米アーカンソー州の空軍基地から、第18空輸航空団所属のC-130輸送機6機が飛来。横田基地配備機とともに関東周辺での編隊飛行や三沢基地(青森県)、朝鮮半島方面との往復飛行などを繰り返しました。

第19空輸航空団のホームページは13日付ニュースで、4カ月間海外に展開し12カ月間は米本土の基地で訓練などを行う新たな「4ノ12全領域即応作戦(FSR)」構想の最初の「総仕上げ」と迅速な

アジア増強 最初の仕上げ

横田基地上空で物資投下訓練をするアーカンソー州から飛来したC-130輸送機。13日(羽村平和委員会提供)

戦力展開の演習を実施したと伝えました。同構想はアーカンソー、テキサス両州のC-130輸送機4個飛行隊を4カ月交代でインド太平洋地域に派遣するもので、2019年から始まりました。横田基地の監視活動を「総仕上げ」演習は横田、三沢、嘉手納(沖縄県)、岡山(オサン、韓国)の各米空軍基地の部隊と一体で実施しました。演習に参加したパイロットは「現在、世界各地で飛行隊の空軍兵の約10〜20%が飛行しているが、この演習を通じて70%近くまで引き上げることができる」と説明。最終目標は緊急の展開に動じないよう練度を維持することだと強調しました。C-130輸送機は、軍事作戦でパラシュート降下などの兵員投入、戦域内での兵器・物資の空輸を担う戦術輸送機です。横田基地では12年以降、海兵隊や特殊部隊の降下訓練、編隊飛行訓練を頻繁に実施しています。

多摩の一部の浄水場で検出疑い 市民団体が有害物質学習会

多摩地区の一部の浄水場で水道水から、有害物質である有機フッ素化合物（PFOS、PFOA）が検出された疑いがあるとして、市民グループが二十四日、羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」で、同物質による健康への影響などを考える学習会を開いた。

市民でつくる実行委員会が主催。羽や実行委によると、都が行った昨年の調査で立川市と武蔵村山市にある井戸から同物質が検出された。

実行委によると、都は調査が済んだ多摩地区の一部の浄水場で、水源を井戸水から川の水に切り替えた

PFOSやPFOAの危険性を説明する小泉名誉教授（羽村市生涯学習センター）ゆとろぎで



2月25日 東京新聞

20年(令和2年) 2月25日 琉球新報

PFOS基準「より厳しく」

小泉京大名誉教授 厚労省案見直し提言



小泉昭夫氏

【東京】米重秀手納基地などの周辺で検出されたPFOSなど有機フッ素化合物の厚生労働省の水道水質基準案について、小泉昭夫京大名誉教授（環境衛生学）が24日、東京都羽村市内で会見し、より厳しい基準にすべきだと提言した。厚労省案の10ナゲあたり50ナゲを10ナゲにするよう求めている。基地由来の疑いも指摘し、低出生体重児との関連から胎児の影響調査や、発がん性の指摘を受けている。

会見は、小泉名誉教授を招いて開催された米重横田基地周辺の水質汚染を知る学習会実行委員会の主催。横田基地周辺の井戸でもPFOSなどが高濃度で検出されている。

実行委のメンバーは汚染が基地由来のもののみで、環境関連の市民団体などとも連携して国に調査拡大を求めている。

小泉氏は、沖縄での水道水のPFOS汚染地域で低出生体重児の割合が高くなっているデータを示し、「直接PFOSと関係するかはまだ分からないが、このデータを無視して国が基準を決めるのはおかしい」と指摘。米国基準の援用ではなく、既に検出された沖縄と大阪の汚染実態も踏まえて議論すべきだと述べた。

という。実行委は「米軍横田基地で貯蔵されている発火剤が漏出した可能性が高い」と指摘している。

京大名誉教授が、同原の基地周辺のデータなどを基に、低体重児の出生や発がん性を待つ恐れがあることを指摘。国が検討している水質基準の改正方針について「緊急に厳しい基準を作る必要がある」と訴えた。

（布施谷航）

飲料水基準 国に要請へ

京大名誉教授と市民団体会見

有機フッ素問題

京都大学の小泉昭夫名誉教授と「横田基地周辺の水汚染を知る学習会実行委員会」の高橋美枝子さんは24日、東京都内で記者会見し、飲料水の基準として有機フッ素化合物のPFOS（ピーフォス）、PFOA（ピーフォア）の合計値を10ナゲあたり10ナゲ（ナノは

10億分の1）程度にするよう厚生労働省に求める考えを明らかにしました。

PFOS、PFOAは、発がん性のリスク懸念、胎児や新生児への影響が指摘されています。厚生労働省は、2009年にPFOS、PFOAについて

水道水質管理計画の水質監視の要検討項目に追加しましたが、放置。今月19日に厚生労働省が設置した「水質基準逐次改正検討会」は、PFOS、PFOAを10ナゲあたり50ナゲを暫定目標値とする答申を出しました。

小泉氏は、PFO

S、PFOAが低出生体重児の出生率に影響しているとの沖縄県の「航空機騒音による健康への影響に関する調査報告書」や、大阪府下でPFOAが使用されていた時期と使用されなくなった時期との比較で低出生児の頻度に違いがみられた事例

を前提に、暫定目標値を制定すべきだと提唱しました。

10ナゲを目標値とするのは厳し過ぎないかと記者団に問われた小泉氏は、「沖縄県宜野湾市などで検出されている数値の半分程度であり、十分可能」と述べました。

2月24日、有機フッ素化合物

学習会開催、参加者多数

東京新聞、琉球新報、しんぶん赤旗 各紙が記事を掲載

2月25日 しんぶん赤旗